

第3回名古屋市次期総合計画シンポジウム まちづくり・リニア中央新幹線を中心に

日時：令和5年11月7日 火曜日 午後6時から午後8時40分頃
会場：名古屋市芸術創造センター

司会

みなさま、こんにちは。本日は、名古屋市次期総合計画シンポジウムにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、本日司会を務めさせていただきます、黒田ひとみと申します。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、本日のプログラムをご案内します。まず、名古屋市総合計画中間案の紹介動画をご覧ください。続いて、名古屋学院大学 現代社会学部 教授 江口 忍（えぐち しのぶ）様より基調講演をいただきます。その後、休憩の時間を設けたいと思います。休憩後は、名古屋学院大学 名誉教授 井沢知旦（いざわ ともかず）様のファシリテーションのもと、江口忍様、錦二丁目エリア マネジメント株式会社 代表取締役の名畑 恵（なばた めぐみ）様、BOYS AND MEN の本田 剛文（ほんだ たかふみ）様によるトークセッションを行います。最後に、次期総合計画中間案に対するみなさまからのご意見を伺う時間を設けたいと思います。

終了時刻は20時15分ごろを予定しておりますが、途中退席や再入場も可能です。また、本日会場にお越しのみなさまにお配りした封筒の中には、アンケートと名古屋市次期総合計画中間案に対する意見用紙が入っております。

本日のシンポジウムはオンラインでもご覧いただいておりますが、配信中の動画の概要欄には、アンケート回答フォームと中間案へのご意見募集フォームへのリンクをご用意しております。

本日の公演内容や次期総合計画についてのみなさまのご意見をぜひお聞かせください。なお、ご意見募集フォームからいただいたご意見は、中間案に対するご意見を伺う時間に会場で紹介する場合がございます。

それでは、開会に先立ちまして、名古屋市長河村たかしよりご挨拶申し上げます。

（0：02：53）

名古屋市長 河村 たかし

それではようお越しいただきまして。サンキューベリーマッチ。日本で1番給料の安い市長でございます。ありがとうございます。

サンキュー、サンキュー。あー、拍手してくれると今日ありがてゃあな。こないだ、うちね、ウエストバージニア州言って、アメリカの州の商工会議所の人に来て、アメリカ人ですけど、アイム ザ ローエスト ペイド メイヤー イン ジャパン、日本で1番給料の安い市長だと言うとみんな拍手しますよね、これ。日本人はほとんど、それがどうしたのって、ほんで終わりだもん。

まあ、酒飲まなやっとなんわいうことですよ、これ、ほんとにね。まあ、そうやって政治をやるものはパブリックサーバントでやらなあかんちゅうことですよ。まあ、今日はリニアという話ですけど、後で出てみえる井澤知旦さんと、先生は名古屋のまちは消毒都市だということを言われてですね。これはね、なかなかずばり当たってるんです。路地をみんな、潰してまったということです。路地は今人気ありますけど、明治時代の頃なんか、正岡子規とかね、樋口一葉とか、まあうちの親父の兄貴も結核で死んどりますけど、みんな伝染病が流行ったとこだった。それを全部ぶっ壊して、ものすげえまっすぐな道にしたという。その言葉の生みの親、井澤先生がお見えになりますんで、その辺のどこかに聞いていただくとええかしらんとおもいますが。ついでに言うておきますけど。その同じ流れですけど、「ああ固定資産税」と言うてですね、これ、僕が作詞した曲が今、YouTubeに、YouTubeじゃない、Twitterにあげてありますけど、これ同じ趣旨なんです。これ、戦争でめちゃくちゃになりまして、名古屋はね、これ、軍事都市だったんですから。んで、まーあの一、お墓をみんな平和公園を移して、あとは広い道路ばっかになってたと。で、ばあちゃんのお墓も、じいちゃんのお墓も、もうここになきゃあと、みんな平和公園行ってまたと。ああ固定資産税という歌ですけどね。これ、井澤先生の消毒都市と言わんとすることはほとんど同じです。そっからどうやっておもしろえまちにしていくかと。どえりゃあ大きい課題でして。だで、まあ、今んところは東京と大阪の真ん中だし、やっぱトヨタ自動車が、世界最大の自動車会社があると。名古屋の名古屋港の貿易黒字って7兆もあるんですよ、去年。7兆見たこともないでしょ。去年1年だけで、半分大体トヨタですから。ものすごいんですよ、これ。ま、そういうことで、これでやっとなりますけど、リニアが大阪まで直通したときには、まあひょっとしたら、さようなら、さよならと、名古屋は止まらんがねと、そうなるといかんてね。だから僕は、おもしろえまちにせないかと。どえりゃあおもしろえと。それは平たい言い方ですけど、まあ、無味乾燥の言葉で言うと、文化芸術というか、名古屋におっておもしろえなあいうて。年食うとね、わしも若作りしとるけど、75ですよ、これ、ほんとにやけくそだわ。やっぱね、1杯飲んで、名古屋に住んどってね、文化芸術と言

いますか、音楽でも美術でもええけど、そういうのを味わえると。で、子供がみんな好きなことをやってね、生きてけると、そういうまちを作れるっていうのが1番、まあ、人生最後の、八事行く前の楽しみだわ、これは。ということでございますんで、非常に名古屋も大きい、リニアは40分だと、そんなことばかり言っていかんわけ。そこで、やっぱ市民にとってね、あー名古屋住んどってよかったなと思ってまわないかんということでございます。まー、何分喋るんだった、2分だ言って。2分はちょっといかんで。失礼だでいかんって、来た人に。ということだと言っておきましたけど、ぜひいろんなご意見をいただけたらありがたえあと思います。

そんなことで、今日はおいでいただきまして、サンキューベリーマッチ。ありがとうございます。

司会

河村市長、ありがとうございました。河村市長はここで退席いたします。次に、7月31日に公表されました名古屋市次期総合計画の中間案を紹介する動画をご覧いただきたいと思います。この動画は、一見難しそうな次期総合計画中間案について、本日トークセッションにも出演いただきます、BOYS AND MENの本田 剛文さんとOS☆Uの夏川 愛実（なつかわ あみ）さんと一緒に勉強していく内容となっております。それではご覧ください。

（0：08：14）

名古屋市次期総合計画中間案紹介映像上映

司会

いかがでしたでしょうか。次期総合計画中間案の概要について、ご理解いただけないだけたのではないかと思います。

続きまして、本日のシンポジウムのテーマ「まちづくり・リニア中央新幹線を中心に」に基づき、「リニア時代へのプロローグ ～名古屋・未来への分岐点～」と題しまして、名古屋学院大学 現代社会学部 教授 江口 忍様にご講演いただきます。

江口様は、地域経済、都市戦略がご専門で、名古屋市交通問題調査会委員、名古屋市文化財保存活用地域計画策定に関する有識者等会議委員などとしても幅広くご活躍されています。それではみなさま、江口様を拍手でお迎えください。

江口様、よろしくお願いいたします。

(0:29:25)

名古屋学院大学 現代社会学部 教授 江口 忍氏（以下、江口氏）

はい、よろしくお願いします。みなさん、こんばんは。

今日はですね、名古屋市次期総合計画シンポジウムということでですね、まちづくりとリニアをテーマにお話をさせていただきます。今日持ってきた演題はですね、リニア時代へのプロローグ、名古屋未来への分岐点ということでですね、通常であれば、最初ね、講演スタートするときに、少し枕話として、軽い話で、2、3分、ちょっと和んでいただく時間を設けることが多いんですけども、今日はお話をしたいことがたくさんあって、時間が45分と限られてますので、早速本題に移らせていただこうと思います。よろしくお願いいたします。

まず最初にですね、リニア時代を前にした名古屋の今を俯瞰するということで、今の名古屋に対しての認識について少しお話をさせていただきます。

みなさん方、名古屋、今ね、景気もそう悪くないし、リニア開業も大体見えてきて、そんなに悪い感じはしないのかなという風に思ってる方多いと思いますけども、実はですね、今、私は名古屋にとって今というのは、未来に対しての本当に分岐点、ここでどう進むかということがですね、この先の名古屋を大きく左右するというふうに思ってます。言い換えるとですね、ちょっと厳しい言い方ですけど、ラストチャンス。じゃあ、なんでラストチャンスだという風に思っているかと言うとですね、リニアができるってことが決まってから、もうかなりの長い年月が経ちますけども、これまでそのリニア開業を前に準備として名古屋市がどういう施策を進めてきたか、あるいは進めようとしているのかということについてちょっと見ていこうと思います。

具体的に言うとはですね、ここにございます通り、名古屋駅の乗り換えの環境の改善、名古屋駅は非常に乗り換えが不便なので、乗り換えをよくしたいという風なこととか、名古屋高速道路、名古屋高速道路というのは、よくできた高速道路ではあると思うんですけども、名古屋駅から、高速道路を乗ったり降りたりするとちょっと不便だ、そこらへんを改善すると。冒頭、今日ね、河村市長、ご挨拶されましたけども、河村市長の肝入りの政策である名古屋城の天守閣の木造化と、これもある意味、名古屋に来街者を増やそうということで、名古屋市が進めていること、ということだと言えます。

それから、高級ホテルの誘致、あるいは、SRT、新しい路面交通、名古屋駅と栄、あるいは名古屋城の方を結んでいくような、名古屋市内の都心の回遊性を高めるような新しい最新型市電をやられようとしているわけですけど、今までやってきてること、あるいは今やろうとしてることというのは、このハードの

整備が中心だということは言えようかと思います。確かに、ハードの整備、非常に大事は大事だと思うんですけども、じゃあ、これらのことをやった先に、果たして名古屋の発展が、みなさん方イメージできるかどうか。

(0:33:04)

色々なお考えがあるとは思いますが、正直なところ、私は、ハード整備だけでは、東京へのストロー現象に抗うことはできないと思っています。

東京のストロー現象という言葉はね、みなさん、今日、こういうシンポジウムにお越しになられている方ですから、よくご存じだと思いますけども、大きなまちと小さなまちが、行き来がね、鉄道とか、高速がどんどん便利になった場合に、大抵の場合ほぼほぼ例外なく、小さなまちにいる人たちが大きなまちに遊びに行く、あるいは、小さなまちにある会社が大きなまちに移ってしまうということが起きる。例外は極めて少ないです。

名古屋も大都市ですけども、東京と比べれば、大体、サイズとしては4分の1ぐらいのまちです。行き来がリニアで40分になったら、やっぱり名古屋の人は東京に遊びに行く機会が増えるだろうし、名古屋の企業が東京の方に出ていってしまう。もちろん、逆の動きもあるかもしれないのだけど、大きな流れとしては、やっぱりストロー現象に抗うというのは、非常に難しい。それはなぜかということ、今までそういうことができたまちがなかった。唯一の例外が軽井沢くらいです。軽井沢はブランディング、ブランドがあるまちなので、非常に東京にないものを持ったまちという点で、東京から富裕層を結構たくさん転入で受け入れて、長野新幹線ができたことによるストロー現象ってのを、逆に跳ね返して、逆ストローというのを起こしてるまちではありますけど、なかなか今の名古屋を考えると、これらのハード整備では東京へのストローというのは、防ぐことは難しいかなという風に思います。

じゃあ、ちょっとリニアの話から離れて、今のこの名古屋、愛知県、東海地方の景気というか、経済について、大きな懸念事項があります。それは、もちろんね、この名古屋というのは、愛知県にあってこの名古屋市自体の経済力は、決してものすごく強いものではありません。名古屋市の経済力というのは、西三河の自動車産業が非常に強い。そこに対して様々なサービスを提供したり、西三河に住んでいる方が名古屋のものを買ってくれたりっていうことで、ここは非常に潤っているという部分があるわけですけども、この肝心要の自動車産業ってのは、今、好調は好調です。ですけども、ご承知の通り、自動車の電動化っていうのがどんどん進む。それから、車の全体の中、車を構成するいろんな要素として、ソフトウェアってのは非常にウエイトは高まって、この電動化に関わる電池とかモーター、それからソフトウェア産業っていうのが、残

念ながら地元愛知県エリアでは、集積が弱い。ないわけではないんだけど、やっぱり三河エリアの自動車産業ってのは、ガソリンのエンジンの、自動車を作るためのいろんな集積が。となるとですね、今起きてることってのは、トヨタ栄えど地域潤わずになってる。

(0:36:33)

つい先日、トヨタ自動車、今期の決算見通し発表しました。連結の売り上げが43兆円、営業利益が4兆5000億円、過去最高です。非常に調子がいい。けども、だんだん、そのトヨタが調子がいいことと、地域経済の調子がいいことってのが、リンクしなくなってきてるという部分がある。となるとリニアをむかえる部分でもちょっとなかなか十分ではなく、肝心要の自動車産業が、車産業は調子いいんだけど、地元への貢献度が下がっているとなると、リニア開業後の名古屋ってやばくない？今風の言い方をするとです。ちょっと、この部分が懸念されるところです。

少しデータで、今の名古屋を確認しておきたいと思います。これは何かというと、3大都市圏の人口1,000人あたりの転入超過者数、ちょっと長ったらしいですけども、転入超過者数、人口あたりの転入超過者数ってのは、要するにですね、引っ越しでどれだけそのエリアに人口が増えてるか。転入超過であれば増えてるか、増えている、転出超過であれば減っているということになるわけですけども、これを、1985年から昨年までの、東京圏、名古屋圏、大阪圏の数字をグラフ化したものです。

まず、1番上の東京圏、東京ってのは、ずっと転入超過、バブル直後に、一時、転出超過になりましたけれども、大体転入超過が続いている。つまり今、東京一極集中ってのはずっと続いている。ちょっとコロナの時にね、少し弱くなりましたけど。

そして、大阪はどうかっていうと、大阪の経済悪かったもんですから、ずっと転出超過だった。大阪地盤沈下が進んでいた。ただ、大阪のこのトレンドをちょっとご覧いただきたい。トレンド線を引くと多分こんな感じです。昔と比べると、昔はひどい、かなりの転出超過だったんだけど、今それがどんどん少なくなってきて、今、ほぼほぼイーブンまで来ました。

じゃあ名古屋、どんな感じかっていうと、かつては東京ほどの転入超過ではないんだけど、大阪よりも明らかに上の状態がずっと続いてました。ところが、ちょうどリーマンショックのあたりから、大阪と並んできています。今、起きてる、足元で起きてるのはこれです。だだ下がりというと極端かもしれない。顕著に下がってます。愛知県だけピックアップしても同じ傾向です。

つまり、大阪と比べても、その人口の吸引力ってのは下がってしまう。これは対東京圏と対大阪圏だけをピックアップしたものです。これは人口 1,000 人あたりじゃなくて、実数です。つまり、どういうグラフかという、東京圏に対して名古屋圏がどれだけ、人口がとれてるか、あるいは持っていけるか、大阪圏に対してどうかという数字なんですけど。

東京圏に対してはずっと転出超過、つまり名古屋圏ってのは東京にどんどん、どんどん人口を奪われ続けていて、ここ最近その奪われ度がかかなり深刻にひどくなってきている。大阪に対してはずっと人口の綱引きで勝ってました。勝ってたんだけど、やっぱりリーマンショック後ぐらいからイーブンになって、今、負け始めてる。いかがでしょう。この感覚って多分名古屋に住んでるとない。あまり普段感じないと思うんだけど、データってのは、これ正直です。

(0:40:12)

車関係の話で、少し補足したいと思いますけど、これは何かというと、トヨタ自動車の国内生産台数、海外生産台数をそれぞれ縦棒グラフで表したものです。海外生産は 1980 年からですけど、昔は海外生産ほとんどなかったのが、グッと増えて、今、このぐらい。海外で 700 万台弱作ってる。この黄色の方が国内の生産台数です。これだけ見ると、減ってるのか増えてるのかってちょっとわかりにくいんですけど、90 年あたりは大体 420~430 万台作ってました。今が 320~330 万台ぐらいです。100 万台ぐらい落ちてます。この赤いラインというのは、目盛りはこの右側ですけども、トヨタのグローバル生産、国内、海外全部合わせた生産台数のうちの海外の割合が何パーセントかということですけども、今、7 割に達している。国内で作ってるのはたった 3 割しかない。さっきちょっと言いました、トヨタ栄えど、地域潤わずという、それを示しているデータの 1 つです。

もう 1 つ、こちらの方が、さらに深刻なデータかもしれません。これは、国内だけの生産台数をピックアップしたもの。これ、トヨタだけじゃありません。すべての日本の全部の自動車メーカーの乗用車生産台数のうち、愛知県で、どれだけ作ってるのか。愛知県以外で、どれだけを作ってるかというのを表したものです。比較対象は 1990 年。この年が、日本が最も国内で車を作った年です。国内生産のピークの年に、全国で 1,003 万台車を作りました。愛知県、367 万台、愛知県以外は、636 万台ということで、約 4 割、日本で作る乗用車の 4 割弱がですね、愛知県で作られたと。ところが、2020 年、これ今わかる 1 番最新のデータですけども、ご覧いただくとどうですか。愛知県以外の台数ってのは、636 万が 635 万台、1 万台減っただけです。でも、全国で言うと 190 万台減っています。つまり、どこで、その 190 万台の減少

分のほとんどはどこで減ったかっていうと、愛知県です。愛知県の自動車生産台数は半分以下になりました。これも我々地元に住んでると、あまり感じないことです。トヨタはずっと調子がいいし、トヨタに支えられて、我々の経済もそんなに悪い感じはしないんだけど、事実はこちらです。トヨタの生産、愛知県内での生産ってのは、非常にシュリンクしてる。

(0:43:14)

そして、リニア絡みで言うと、これからリニアが開業して、名古屋は便利になって、これからもっとずっと良くなるんじゃないかという期待感はあると思いますが、でも、ちょっとそれに水を差すようで申し訳ないんですけど、実は非常に名古屋にとって気になることがある。

それは何かというと、東京の方で大きな開発が進んでいるということです。どういう話かと言うとですね、みなさま方も東京に新幹線で行くと、品川駅止まった後、東京駅に向かっていく、もうちょっと向かっていくと、品川出るとすぐにですね、両側、特に左側に大きなクレーンがたくさん上がってるのをご覧になられたことはおありになるかと思います。あれがこれです。

「TAKANAWA GATEWAY CITY」のまちづくり概要という風にありますけど、この JR 東日本が、山手線とか、新幹線とか、京浜東北とか、いっぱい電車が集まってるところの陸地側の方に、大型再開発を進めてます。品川駅、この辺です。田町がここの辺にあるのかな。これの規模感が、やっぱりものすごいです。投資額は 5000 億円、多分、今だともっと上がってると思いますけども、あの高層ビルが、とりあえず 4 棟、最終的には、何棟だっけ、7 棟だったか、8 棟だったか、ちょっと忘れちゃったけども、それが、もうまもなく、2024 年度末から、2025 年度中に、こういうものが、どんどん、どんどん建ってきます。で、ここには、様々なオフィス、それから、エンタメ関係の施設とかですね、非常に大きな規模のものです。我々、名古屋にいますとですね、みんな関心事は名古屋駅前の名鉄百貨店、名鉄グループの建物が大型再開発で建て替えるって話は、報道とかでみなさまはご存じだと思いますけども、規模感が全然違う。もちろん、名鉄のビルも大きいですが、こういうのが名古屋駅と対峙する向かい側の、相手側の品川のところにできるっていうのは非常に恐ろしい。つまり、ストローする吸引力に繋がってしまうと。

で、品川の強みってのはたくさんあります。名古屋駅も同様ですけど、新幹線とリニアの駅、両方の駅ができる。それから、羽田空港にめちゃくちゃ近い。1 番早い電車だと、国際線のターミナルまで 13 分で行きます。で、成田へのアクセスも今、改良は予定されて、計画、検討が進んでいる。裏側には東京の巨大な企業集積が。そして、この足元の高輪・品川エリアで大型の再開発が進

む。

トヨタ自動車も飯田橋にある。東京の飯田橋にある東京本社を品川駅の真ん前に移すということは、最近、半年ぐらい前かな、発表されました。ということを見ると、今、名古屋に暮らしていると、名古屋駅前って人通りも多いし、非常に活気があるんだけど、それも、その名古屋駅前も、安泰ではないということが言えようかと思います。

(0:46:52)

さて、では、ここからは今日の本題ですけども、リニアが開業した後、リニア時代に向けて、名古屋にとって大事なことでなんだろうか。

私は3つあるという風に考えてます。1つ目、人や企業が「来る街」。2つ目、国際性の強化。3つ目、圏域発展のサポート。

これらの要素ってのはちゃんと、名古屋市の総合計画の中間案と見ましたけど、ちゃんとみんな書いてます。こういう表現ではないんだけど、今からお話をするようなエッセンスはちゃんと総合計画に書いてあるので、名古屋市としてはこういう視点をお持ちだということがわかりました。

具体的にどんな話かという、後で細かく説明するので、ここはちょっとなぞるだけですけども、全部出しちゃうかな。

はい。人や企業が「来る街」ということですけども、名古屋から東京へ行く人、出ていく企業が増える分を、全国、世界から来街者、まちに来る人、あるいはその企業、進出してくる企業を増やして埋め合わせる。つまり、東京にストローされるのはしょうがない。しょうがないけど、いくらかでも他なんとかして遊びに来る人、それから、進出する企業、進出を増やして埋めてこう、これが1つ。2つ目。これちょっとややこしいんですけども、国際性の強化ということで、私が特に注目してるのは空港です。国際空港。具体的に言うとセントレアです。今、セントレアっていうのは、後でちょっとデータ見ますけども、そんなに大した空港ではありません。関係者の方いらっしゃると申し訳ないんですけども、羽田とか成田とか関空と比べては全然大したことない空港です。施設は立派ですよ。でもリニアができると、首都圏からの利用者取り込みで、セントレアの国際路線網が拡大するという風に私は考えて、確信をします。それを名古屋の国際化に生かしていこうということです。

3つ目は、圏域発展のサポートということで、これはあの名古屋市にとっては非常に大事、特にあの大事な視点だと思うんですけども、先ほども申し上げました通り、名古屋っていう都市は、この東海圏あるいは愛知県の中で、もちろん中心都市であるんだけど、それほどのスーパーパワーの都市ではありません。例えば東京なんかだと、東京都って1400万ぐらい人口いますけれど

も、23区は、900万、1000万ぐらいかな。圧倒的に23区ってでかいんですよ。

(0:49:35)

でも、愛知県における名古屋って全然違います。愛知県750万人に対して、名古屋市はたったの230万人なんです。東海3県で全部で1100万人。名古屋市民なんてごくわずかとは言いませんけど、それほどのボリュームではありません。なので、名古屋市単独で頑張って東京と戦おう、大阪と戦おう、と言ったって無理な話です。大事なことは、名古屋市が持ってるポテンシャルを周辺都市にどんどん使ってもらって、全体として発展していくとね。で、産業的には圏域の柱である自動車産業ってのはまああるわけですけども、これを名古屋として、自動車産業でトヨタが負けないように、トヨタがもっと世界を競争力上げてもらうために、名古屋市としてできることは何かっていうことをサポートしたい。

あるいは観光についても、後でちょっと触れますけども、名古屋市の単独の観光っていうことを、もちろんそれはそれでやるにはいいんだけども、大事なことは、東海地区全体の観光を盛り上げるために名古屋市としてやっていくことってのを、貢献してやっていきましょう、そういう形で周辺都市との連携を図る、この視点がすごく大事だと思います。これもちゃんと総合計画に、圏域のために色々頑張りますよっていうようなことをちゃんと書いてあります。

(0:51:00)

今3つお話したうちのまず1つ目からね、少し細かくお話をしていきますけど。まず、人や企業が「来る街」ということで、ストローされる分を埋めていくという発想なんだけども。まず、名古屋ってのは、それは、様々な意見はあろうかと思いますが、やっぱり、残念ながら、他の大都市と比べてもね、観光スポットは、やっぱり少ないと思います。名古屋の観光スポットっていうと、名古屋城があって、熱田神宮があって、この2つが双璧としてきますけども、どっちもそんなにお金を落としてくれる観光地ではありません。全国的にものすごく観光スポットとして強力なその引力を持ってるものかかっていうと、それはそうだ。

そういう名古屋においては何が大事かかっていうと、ハードの整備を一生懸命やるのはそれはそれで良しとしても、ソフトや人の魅力、そこで人に来てもらう、人に楽しんでもらうと、魅力を作っていくと、ここが鍵になるかなという風に思っています。具体的に言うと、観光視点で言うと、私がとても大事だと思っているのは、やっぱり、栄です。前からすごく思ってることなんですけど

も。ここ20年ちょっと、具体的に言うと、2000年にJRセントラルタワーズが開業して、全面開業して以降ずっと、名古屋の2つの都心の中の力関係は、名古屋駅がどんどん伸びていって、栄はやや押され気味という時代が続いてきました。

最近、ようやく中日ビルも新しくオープンして、もうちょっとすると三越の北側のところに三菱地所の新しいビルができるってということで、投資もいづらか出てきたものの、まだまだ栄は、なんていうかな、ポテンシャルを持て余しているという風に見えてしまいます。

全国目線、あるいは海外目線で言うと、名古屋駅っておもしろくもおかしくもなんともないまちです。効率優先、機能優先ね。ミニ東京で、東京の人を名駅に連れて行ったって、別にすごいなっていうことは言ってくれます。でも、栄ってやっぱり違うんですね。やっぱりああいうすごくオープンな空間っていうのは、それは他の大都市で言うと、札幌ぐらいにしかない。ですから、栄という空間で、いかに遊んでもらうのかってのが大事になるという風に思ってます。で、具体的に言うと、じゃあ、何を言ってるのかっていうと、私は、イベントというか、ソフトコンテンツ。名古屋で生まれた、栄で生まれたソフトコンテンツとして有名なのは、どちらも真夏のイベントですけど、にっぽんど真ん中祭りとか、世界コスプレサミットとか。どまつりは、25年ぐらいやっていますし、コスプレサミットも10年ぐらいかな、やっています。どちらも実際見てみると、本当に全国、あるいは、どまつりなんか、世界から人が来てくれます。

(0:54:20)

あんな暑い、真夏の8月の名古屋にわざわざ来てくれるわけですから。こういうものを育てるっていうことが、名古屋のこの先の来街者を増やしているところの勝負どころじゃないかと。これはね、栄はもちろん大事な話です。札幌なんか行きますと、札幌って大通公園で年がら年中いろんなイベントやってるんですよ。私、今、たまたま息子が北海道の大学に行ってるので、最近、北海道、札幌行く機会がすごく増えたんですけど、本当にいつ遊びに大通り公園行っても、なんかやっています。

一方、栄の久屋大通公園。イベントやる時もあるんだけど、まだまだそこっというのは、伸ばしていく余地があるかなという風に思いますし、他の観光スポットでも、まちのソフトっていう部分で魅力づくりができるのは、栄はもちろんですけど、大須だったり、あるいは四間道、円頓寺だったり、うちの大学の近くには金山だったり。金山もすごくポテンションあるところだと思うんだけど、持て余している感があります。それから、最近だと鶴舞公園ですね、

そんなようなところ、まだまだ都市の魅力づくりのフィールドになるんじゃないかなという風に思います。一方、その企業を増やしていくっていう部分で言うと、企業誘致は、自動車産業。やっぱりこの地域っていうのは、名古屋市自身に自動車産業が立地しているわけではないんですけど、この愛知県においては、自動車産業ってのは特別に大事な存在ですので。企業進出をやろう、企業を呼び込もうとするときに多くの自治体が間違えるのは、その時に伸びている産業、あるいはその時注目されている産業に飛びつくってやつ。私、今、岐阜市民ですけども、隣の大垣というまちがあって、大垣は昔々ですね、これからの時代はIT産業だ、だからIT産業の拠点作ろうと言って、ソフトピアジャパンという巨大施設を作りました。でも、残念ながら根付かなかった。今、多少ましになってますけども、それは、そこにある必然がないからです。名古屋において、地元で立地する最もその必然のありそうな産業ってのは、やっぱり車。車だけじゃなくて、モビリティ産業です。やっぱりこの地域は、自動車産業があり、それから日本車両みたいな、鉄道車両を作る会社もあったり、移動するっていう産業が昔から根付いているところですよ。

なので、それに関連する産業で勝負していくべきだろうと思うし、車関連産業の企業にも大いに期待するところです。もう実際にすでに、今、最近の企業ではありませんけど、ティアフォーっていう自動運転の世界では、日本の中でも有数の会社ですけども。これは名大の当時いた先生が起業で起こして、でも、残念ながらその先生、東大行っちゃいましたけども、やっぱり、車関連のビジネスってのは、まだまだ出てくる可能性があるかなという風に思います。

(0:57:48)

で、次です。国際性の強化ということで、さっきちょっと言いました、首都圏からの利用者の取り込みで期待されるセントレアの国際路線網の拡大を生かすという風にありましたけど、この話はちょっとわかりにくいんで、こっちから先に次のスライドの説明からしよかな。

私は、リニアができると、セントレアの機能が強化され、名古屋の国際性が飛躍的に向上するという風に思ってます。なんでリニアの話と空港の話がリンクするかっていうと、ちょっとややこしいんですが、こういう理屈です。まず、リニアが開業すると、羽田っていうのは名古屋から1時間で行ける空港になります。名駅から品川まで40分で、京浜急行で乗り換えて、そこから13分とか15分ぐらいで国際線ターミナルに行きますので、1時間で羽田に行けると。そうすると、普通であればみんなセントレアなんか使わずに、海外行く時は羽田使おうっていう風に思うはずです。私もそう思います。これが今のセントレアの現実です。

空港別の週あたりの国際線便数と、就航都市、国、地域数ってことで、ちょっと数字細かくて申し訳ありませんけど。今年の3月の終わりから4月1日までの1週間ぐらいのところで、羽田は週にですね、1000便以上、国際線が飛んでます。羽田が796便、それに対して、中部国際空港セントレア123便です。福岡の半分以下、関空の4分の1、5分の1ぐらい。これは、行き先の都市と国数ですけど、羽田が40都市の21か国、セトレが11都市の8か国と。もう一目瞭然ですよ。

我々にとって1番の柱になっている中部国際空港は、羽田、関空、成田と比べると全然能力が低いというのか、路線網が弱い。元々そうだったわけではないんです。実は小牧空港時代どうだったかと言うと、小牧空港時代から行けた、直接行けた海外ってこんな都市です。

ニューヨーク、ロサンゼルス、ポートランド、デトロイト、バンクーバー、サンパウロ、ロンドン、パリ、フランクフルト、アムステルダム、モスクワ、シドニー、ブリスベン、オークランド。

(1:00:33)

今この中で便が残ってるのってどこかな。デトロイト便が、これやめちゃったのかな。この中で1つあるかないか、フランクフルトがあったかどうかぐらいの話だと思います。小牧空港の時の国際線ネットワークって立派だったんですよ。実はセントレアになって落ちちゃった。じゃあなんでそんなセントレアあっても、羽田が近くなんだったらみんな羽田使っちゃうじゃないかと思うかもしれないけど、そうするとセントレアを利用されなくなるから。私の考えはNOです。じゃあなんでか理屈は、こういうことです。

まずこの先確実なことは、国際的な人の移動は増えます。みんな海外からいっぱい日本に人来るし、日本の人もいっぱい海外行ったりすると、国際的な人の移動が増えます。ところが、羽田空港にはもう拡張の余地がありません。今、滑走路4本あります。でも、もうこれ5本目使うかとなると、なかなかそんな簡単じゃない。成田空港は今2本あって3本目工事やってますけども、まあ、いいところまでです。首都圏のあの滑走路、飛行空港の機能拡張するのは、もうそんなに余地がない。そういう中でリニアができれば、東京からセントレアっていうのは75分ぐらい、品川から75分で行けるようになる。品川から名駅まで40分、名鉄に乗り換えて5分で、そこからセントレアまで30分ということになると、75分ぐらいで大体行けるようになるということです。だったら、東京であふれちゃった国際線旅客っていうのが、どこか使わないといけない。1番可能性があるのはセントレア、ということで、首都圏の利用者ってのも、セントレアが獲得することによって、セントレアは首都圏の第

3 空港になって、今までなかったヨーロッパ便とか、北米便とかってのがぐっと増えていく。

名古屋の需要じゃなくて、東京の需要を取り込めるような空港になったから、それができるようになった。そうすると、その結果、悲願だった同時供用可能な 2 本目滑走路（空港沖）が実現と。

（1：03：04）

先ほど、総計の動画の中で出てきた、中部国際空港の 2 本目滑走路は、これじゃありません。あそこで言ってるのは、今ある空港の滑走路のすぐ横っちょに、並行して作って、今まで使ってきたあの滑走路をメンテナンスするとしていう時に、そっちにちょっとスイッチするということで、使える滑走路は 1 本です。2 本あるんだけど、片方が、メンテナンスの時に、もう 1 本使うよっていうやつなんだけど、ここで言ってるのは違います。空港沖に島作って、島作るとは、ほぼほぼ確定をしてるんですけど、伊勢湾の浚渫土砂を埋める場所を埋めるために、そこに、島を作るっていう方向になってますけども。そこに、滑走路敷いて、2 滑走路、両方とも使えるような空港になると。そうすると、能力的には格段に上がります。

結果的に名古屋の国際性が向上すると。そうすると、名古屋県の産業振興や訪日観光に大きなプラスになる。私は、このリニア開業後の名古屋の色々な戦うフィールドがあるんだけど、最も重要なのは、この国際化、つまり空港の話だと思うんです。ただ、この話は条件があるんです。どうしても見逃せない条件が。それはアクセス強化です。今、中部国際空港ってのは、名鉄の常滑線がああアクセス支えてるわけですけども、どうしても地面走ってところが多いですから、踏切事故で止まるとか、大雨で止まるとか、そういうことが起きやすいです。関空にしても、羽田にしても、成田にしても、必ず、全ての日本の主だった国際空港ってのは、鉄道アクセスが複数あります。1 本だけに任せておけません。やっぱりなんかあった時に電車止まったら困ります。

なので、常滑線以外のルート整備ってのは、必ず必要になるという風に思います。でも、これ、お金がかかります。それから、愛知県と名古屋市が一緒に協力してやらなきゃいけません。今の愛知県と名古屋市に、一緒に協力してなんかやれって言うと、なかなか容易じゃないかなと思いますが、でも、そうは言ってもらえません。これを避けて通っては、この、セントレアの機能強化、名古屋国際性アップっていうものに繋がっていきません。それと、もう 1 つは、もちろんこれです。海外から目的地になる魅力ですね。観光の人に来てもらう、働きに来てもらう、それから、企業にも来てもらうっていう風に、目的地になるような魅力ってのをどうやって作っていくか。これが勝負どころになるという

風に思ってます。

(1:06:06)

じゃあ、最後のパートになります。3つ目の、圏域発展のサポートです。産業では、圏域の柱である自動車産業を支えるとともに、観光を含めて名古屋だけで勝負しようとはせず、周辺都市との連携を図ると。

繰り返しになりますが、名古屋都市圏において名古屋市ってのは決してスーパーパワーではありません。割と大きめの中心っていうぐらいの感じです。

産業力から言ったら豊田市の足元にも及びません。その現実をよく見て、いかに周りを育てていくか、そのために名古屋市として何ができるかってことを考えるってことが大事だと思います。

まず1つ目は、乗り換えの利便性の向上。これはもうすでにやっています。名古屋駅のあの、乗り換え利便性っていうのは、今、その名古屋駅前、JR名駅前の、あの飛翔という、くるくるくるという、とぐろ巻いた格好してる、あのモニュメントを今度移設して、あの辺、広場にして、乗り換えをメインにするということはもう進め始めています。JRと名鉄の乗り換えやJRと近鉄の乗り換えを良くしても、名古屋市自身には格別得にはなりません。だって他所行っちゃうわけですから。

けども、そこは得にならなくても、圏域の発展っていうのは名古屋の発展につながることであって、そこはやっぱり頑張っていくってことが大事だという風に思います。

2つ目が、産業・企業誘致の話です。まずはなんと言っても、このエリア、車なんですけども、車産業が今、大きな変革期を迎えてることは、みなさまもご承知の通りです。どんどん電動化が進んでいる。あるいは、トヨタの場合だと、水素に力入れて、燃料電池車っていうのに軸足を置いている。それから、車全体の中での、そのソフトウェア部分、コンピューターソフトのウエイトってのはどんどん高まっているんだけど、これらの産業ってのは、残念ながら地元愛知県にはあまりありません。電池については、ほぼほぼ今んとこありません。それから、水素関係のビジネスもそんなにあるわけではありません。ソフトウェアも、デンソーとかアイシンとか、いくつかのところでやって、新幹線の三河安城の駅周辺にちょっと集積が見られるものの、でも、大半は東京です。

それをやっぱり集積作っていかう。その集積を作っていくのは、西三河ももちろん可能性あるんだけど、私は、特にソフトウェアなんていうのは、この名古屋だと、やっぱり、より都市部の方が集積しやすいという、産業の性格を持っていますので、リニアで40分で行ける名古屋駅前に、自動車の関連のソフト

ウェア産業、企業がどんどんどんどん入ってくるっていうのは、望ましいことだなど。

外国人高度人材の獲得環境整備。外国人について、高度だなんだのって分類するのはあんまり好きではないんですけども、でもやっぱり、新しい産業、新しい技術のレベルを上げていくためには、外国の人の、高度な知識を持った人っていうのを取ってかなきゃいけない。通常の産業分野のことであれば、名古屋に外国人の高度人材が来るとは私は思えません。そもそも日本にそんなに来ないだろうし、日本に来てもしそういう人たちは東京だと思います。やっぱり。

でも、車関係なら来るかもしれない。来ても全然おかしくない。そういう環境を整備していくことが大事だという風に思いますし、それから、新幹線が、リニアができると、各駅停車、あるいは、いっぱい駅が止まるような運行スタイルが増えますので、今、既存のね、浜松とか豊橋とか安城とかというところ駅前ってのは非常に性格が変わっていくと思います。それから、リニアの沿線の都市、中津川と飯田。こういうところと産業連携を強化をしていって、こういうところに発展をしてもらって、名古屋が発展するんじゃなくて。これらの都市が発展することによって、結果的に名古屋がその果実を得るということが、視点が、大事かなという風に思います。

(1 : 10 : 53)

それから観光。観光については、やっぱり名古屋自身に、観光的に魅力を作っていくのは大事、できればあった方がいいんですけども、でもそれにはちょっと道のりがかかるだろうという風に思います。つまり、なんか施設を作ったらいっぱい人が来るって話ではないと思うので。そうすると、いろんなイベントを定着させ、全国的な知名度を上げ、そういうイベントをまちで楽しむっていうことのブランディングを名古屋市が進めることによって、いつか成果が出ると。

だから、当面の間、名古屋は主なメインの滞在地になろうとしなくてもいいと思います。つまり、周辺観光、高山とか伊勢志摩とか、犬山、岐阜、岡崎、私、岐阜市民ですけど、岐阜なんて本当にまだまだ外国の人が遊びに来て喜んでもらえるような観光のポテンシャルってあると思いますので、そういうところに人を引っ張り込むために、名古屋としてできることをやっていくと。

それからもうひとつ、最後の視点としては、今後一層の増加が見込まれる外国人ドライブ旅行の起点にと。やっぱりインバウンド観光っていうのは、日本に慣れてくると、最初はツアーバスであちこち行くというのに、最初、日本に馴染んで、そして個人旅行になって、その先に何が起こるか、起きるかっていうと、自分たちでもっと都市でない地方を見てみたい。そのためには自分たちで

自力で移動できないといけない、じゃあ、レンタカー借りて、セントレアへ降りて、名古屋までは来て、名古屋でレンタカー、セントレアでレンタカー借りてもいいです。それで、伊勢志摩行くとか、岐阜県の方へ行くとか、愛知県の三河の山間部行くとか。で、リアルな日本っていうのを体験してもらう、そういう旅行ってのは確実に増えてくると思うんです。そのためにできる、名古屋でできることっていうのを考えていくと。そんなことも必要かなという風に思います。

ちょうど時間が参りました。私の話は駆け足になりましたけど、以上です。終わります。ありがとうございました。”

司会

江口様、どうもありがとうございました。リニア中央新幹線が開通するのに伴い、名古屋市が人や企業が来るまちになり、国際線も強化されて、ますます発展するのが楽しみです。

みなさま、今一度、江口様に盛大な拍手をお願いいたします。

ここで 10 分ほど休憩の時間を設けたいと思います。10 分後にはお席にお戻りくださいますようお願いいたします。

休憩

(1 : 13 : 48)

司会

みなさま、お待たせいたしました。ただ今よりトークセッションを開始いたします。

まずは、ファシリテーターとゲストの方々をご紹介します。ファシリテーターにお迎えするのは、名古屋学院大学 名誉教授 井澤 知旦様です。井澤様は、建築学、都市計画、建築計画がご専門で、名古屋市新たな路面公共交通システム「SRT」トータルデザイン懇談会委員などとしても幅広くご活躍されています。

ゲストとして、先ほど講演された名古屋学院大学 現代社会学部 教授 江口 忍様、そして錦二丁目エリアマネジメント株式会社 代表取締役の名畑 恵様と、BOYS AND MEN の本田 剛文様です。

名畑様は、愛知県春日井市のご出身。地域の交流居場所「まちの縁側」普及や、全国各地の地域活動などに携われ、2018 年には地縁組織とともに錦二丁目エリアマネジメント株式会社を立ち上げられました。

本田様は、名古屋を拠点に活動を行うアイドルグループ BOYS AND MEN の

メンバーで、数多くのテレビ番組やラジオに出演するなど幅広い分野で活躍されており、冒頭でご覧いただきました次期総合計画中間案紹介動画「名古屋市次期総合計画 ～名古屋の未来を考える～」にも出演されています。本日は「まちづくり・リニア中央新幹線」を題材にしてトークセッションさせていただきます。

それでは、一旦、ファシリテーターの井澤様にマイクをお渡しして、トークセッションを進行していただきます。井澤先生、よろしくお願いいたします。

(1:16:15)

名古屋学院大学 名誉教授 井澤 知旦氏（以下、井澤氏）

みなさん、改めましてこんばんは。今日のシンポジウムのテーマはですね、共通テーマは「誰もが幸せと希望を感じられ、リニアがつなぐ巨大交流圏の中心で躍動する名古屋の実現を目指して」ということなんですけれども、その中で、4つに分けたうちの1つの3番目ということで、まちづくり・リニア中央新幹線を中心に話を進めてまいりたいというふうに思っております。

先ほどのDVDの中で、本田君たちが喋っている中身もそうですし、それから江口先生からの基調講演の中にもありましたけれども、リニアが開通すれば、大阪も含めると、大体7000万人の交流圏域ができるという話でございました。

1億2000万の日本の人口のうちの7000万人というと、大体60パーセントぐらいということですので、巨大交流圏ができるのは間違いございません。ただ、そういう圏域ができたからといって名古屋が発展するかどうかというのは別問題ですので、これをどういうふうにこの地域として受け止めていったらいいのか、またそれを受け止めるまちづくりをどのように進めていったらいいのか、この辺のところを中心に話を進めてまいりたいと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

まず最初に、先ほどの江口先生の基調講演を踏まえてですね、実際、リニア中央新幹線が開通するのが、ちょっと今どうなるかよくわからないところがあるんですが、それによってみなさん、すなわち、特に本田くん、名畑さんのお二方ですね、実際の暮らし、生活、あるいはお仕事にどんな影響があるんだろうかなというふうに思われます。私自身も、新幹線が開通したのは小学校の6年生でしたので、昭和39年、今から約60年ほど前、来年在60周年になるんですかね、その頃は小学生で、新幹線を移動手段として使うという生活を送っていませんでした。初めて新幹線に乗ったのは昭和47年です。大阪から、出身が大阪なものですから、名古屋へ大学受験に行くときに初めて乗りました。

この時、新幹線というと、夢の超特急というのが売りでしたので、今はなんのこっちゃ、何が夢なんだって思われるかもしれませんが、その時はもう夢の超特急です。ハワイに行くのも、夢のハワイと言っていた時代ですからね、もうみんな夢がついていたということなんですから、乗ってみると、非常に速いということと、それから駅間距離が長いということが非常に印象的でした。

ただ、日常的に使う交通手段ではなかったということなんですけど、みなさんのお仕事あるいは暮らしぶりの中で、リニアができたらどんな使い方があるのかという点について、まず本田君の方から、自分の今やってる仕事の話も含めて、ちょっとコメントしていただけるとありがたいです。

(1:19:40)

BOYS AND MEN 本田 剛文氏（以下、本田氏）

ご紹介に預かりました BOYS AND MEN の本田です。みなさま、今日はよろしくお願いします。

僕は先ほど、アイドルというような紹介の仕方をしていただきましたけれども、歌って踊ってということもそうですけれども、個人的には、テレビ番組などに出演させていただく兼ね合いで、東京や大阪っていうのは、結構行くんですね。特に東京は、どんなに少なくとも月に2度、3度、多ければもうちょっと行くというような感じの状況なので、現状は新幹線を使って片道1時間半ないし1時間40分ぐらいかけて行くというような形なんですけれども、仕事柄、そういう移動があるという中で考えると、僕にとって、リニア中央新幹線の開通によっての生活様式の変化というのは、片道が40分とかになりますよね、東京までが。そうすると、朝東京に行って1本仕事やって、名古屋に戻ってきて1本仕事やって、夜もう1回東京に行って仕事に行って、その日のうちに名古屋に戻るっていうストロングスケジュールが可能になってしまうという、働き方改革に逆行するようなことが、まあ物理的に可能になる、それぐらい、名古屋と東京というのが別のまちでありながら、事実上別のまちでないぐらいの感覚になってくるのかなというところで、非常に楽しみであると同時に、今話したことを理由として、個人的にはちょっとだけ怖いなど。これ、勝手な僕の都合なんですけれども、そういったような印象を持っています。

井澤氏

ありがとうございます。要するに、行き来が何でもできるということになってくると、本当に体勝負になってくるんですが、合わせて、質も高めていかないといけないものだから、なかなか逆に言えば大変な時代だし、一方で、いろん

なことでできる可能性のある生活を送れるということも考えられると思います。その辺はどうですかね。希望としては、いい方に動くのか、ちょっと調子悪い方に動くのかという予感ではどうでしょうか。

本田氏

個人的には、今言った、スケジュールの話は冗談半分なんであれですけど、いい方に動くことにやっぱり期待したいなというのはあって。やっぱり僕は名古屋を拠点に活動していますので、僕らの業界以外もそうかもしれないですけど、東京が中心だ、大阪が中心だという業界も多くある中で、遠くのまちまで出て行くのは一仕事になってしまう。それだけでも一仕事になってしまうという現状が、1つ解消されるっていうのは、すごく身軽になると思うし、本当に文字通り、機動力を持って、いろんなことにあたっていけると思うので、すごくそういう意味では、楽しみです。

井澤氏

はい、ありがとうございます。そういう、リニアを早く実現していくということが、どんどんテーマにはなるんですけども、じゃあ、名畑さん、いかがでしょうか。実際は、錦二丁目の方で、まちづくりというか、エリアマネジメントの会社をやっておられて、経営されておられてということなんですが、いろいろ仕事をFacebookなんかで見ると、あっち行ったりこっち行ったり、いろんなところでまちづくりのコーディネーターされたりファシリテーターされたり、本来ここへ座っててはいかんのかもしれませんが、そういう風な仕事ぶりをされておられるんですが、その辺でどうでしょうか。リニア開通ということを考えた時に、日常生活なり仕事ぶりはどんな風に変化するんでしょうか。

(1:23:15)

錦二丁目エリアマネジメント株式会社 代表取締役 名畑 恵氏（以下、名畑氏）

ありがとうございます。私は錦二丁目でちょっと待ち構える立場でこのお答えしたいなと思うんですけども。なんか基本のスタンスはまちが人を育てるっていう風に思っていて、自己紹介させてもらいますと、私たち、錦二丁目エリアマネジメント株式会社ってやってるんですね。それはまちを元気にするための株式会社なんですけれども、100パーセント株主は、地域の町内会ですとか、まちづくり協議会ですとか産業の組合ですとか、再開発の組合ですとか、地縁組織が100パーセント株主となって、やっている会社なんです。なの

で、地元の人たちで、みんなでまちを良くしようとしてる、会社の代表をやっているんですけども。そうすると、やっぱり自分たちのまちは自分たちで守り育もうという立場で、リニア開通ということを受け止めると、やっぱり、私たち、ずっとこう、まちを良くしていこうと思う時に、良質な投資をこのまちに呼び込むっていうことが、やっぱり大きなミッションなんですよ。そうすると、良質な投資といっても、単純に開発とかだけじゃなくって、人とか、まさに江口先生が言ってた、人とか企業をほったらかしにしていると、東京に行っちゃうんだけど、名古屋に呼び込むってことが大事だっていう話があったんですけど、全くその通りだなと思っていて、クリエイティブな人たちが名古屋を身近に感じてくれるチャンスだと思ってます。そうすると、私は、まちづくり仲間が増えるなっていう。でも、自分たちがぼーっとしてたら、東京に行っちゃうという話があるので、今、私たち、仲間を増やす、クリエイティブなまだ見ぬ仲間たちを増やすのに何をすべきかってことを、なんか改めてちょっと考えさせられたなって、江口先生の話聞いていて思ったところです。

井澤氏

それはあれですかね、この、今、名古屋におられるクリエイティブな人たちを束ねて、もう東京に行くんやなくて、名古屋で頑張ってまちを作り、いい仕事しようぜというスタンスなのか、いやいやいやいや、もう東京からまで引っ張ってきて、リニアが開通したんだから、そういう人たちと交流しながら名古屋の方で色々頑張って行こうぜみたいな、こう引っ込み型を想定されるとか、その辺はどうですか？

名畑氏

名古屋のみんなで頑張って引き込む、両方。

井澤氏

両方やっていくということですね。はい、ありがとうございます。江口先生。江口先生はどう変わります？仕事。息子さんは北海道ということであんまりあれなんすけども、リニアを通じて仕事ぶりはどういう風になるんでしょうかね。

(1:26:24)

名古屋学院大学 現代社会学部 教授 江口 忍氏 (以下、江口氏)

私自身の仕事は、大学の教員で、名古屋のローカル私大の先生なので、あんま

り変わることはないと思うんですが、私の教え子のライフスタイルっていう部分で言うと、だいぶ変わると思います。やっぱり今、うちの私のゼミ生なんかも、地元就職の割合が、希望する割合が圧倒的に高いですけども、でも、あの子たちも、東京まで40分で行けるってことになれば、その東京で働くってことが、地元を離れるっていう気持ちってなくなっていくだろう、すぐ戻ってこれるところですから。そうすると、その教え子が活躍するエリアというのが地元だけでなく東京あるいは大阪というところに広がっていくと。そうすると、私自身も、間接的なんですけども、私、今キャリアセンター長って言って、大学の就職部長さんみたいなことをやってるんですけども、やっぱりその自分のたちの大学の学生が、地元だけでなく、広い、まあ東京を広いって言うと、ちょっとあれかもしれないけれど、チャレンジをする場が広がるといいなというふうに思います。

井澤氏

先生ご自身よりも、その教え子たちの活躍の場は、ある意味で言うと、広がるという点で、このリニアに大いに効果があるということだったと思います。ありがとうございました。

リニアが開通して、生活、仕事ぶりが変わると言いながらもですね、要するに、名古屋のまち自身に魅力がなければ、人は、名古屋に住もう、あるいは名古屋で働こう、あるいは名古屋に遊びに行こうみたいな、気持ちっていうのはなかなか生まれないと思いますので、その辺、今日のテーマのもう1つであります、まちづくり、名古屋のまちづくり、これをどう進めていくのかっていうことが、大きなテーマになると思います。

以前、別途の研究で、名古屋っていうのはなかなか歌に歌われづらい都市だというふうに言われてまして、東京とか横浜とか、あるいは札幌だとか、福岡だとかいうのは、いろんな意味で、歌になってるんですけど、名古屋をテーマにしたって、みなさん、聞いたことありますか？白い街という石原裕次郎の歌があるということなんですけど、カラオケではなかったですし、今のやつはあるんですけど、昔レーザーディスクという時には、あまりなかったんですね。そういう意味で言うと、名古屋っていうのは、物語を、男と女の出会い・別れを演出するような、都市背景みたいなのが若干弱いかなあ。だからそういう意味で言うと、もっと面白いまちづくりをしなければいかんのかなあという風に思っています。いわゆる工業都市というのは、なかなかそういうのはなくて、消費都市の方が圧倒的に物語を生むということだと思いますが、どういうまちづくりを進めていったらいいのかっていうことなんです。その辺、名畑さんは、先ほどお話も出ましたけれども、エリアマネジメントというテーマでま

ちづくりを中心に進めておられますけれども、桑名市の長島町にはイルミネーションで有名な「なばなの里」というのがあるんですが、錦二丁目に「なばたの里」というのをこれから作っていかれるのではないかなと思うんですが、どんなまちづくりを進めていかれようとしているのか。なばたの里、ちょっとご紹介していただきたいんですがいかがでしょうか。

(1:30:12)

名畑氏

ありがとうございます。なばたの里と言えるかわからないんですけど、やっぱりまちがカサカサしてるんですけど、潤いのあるまちにしたいなっていうのはすごく思っていて。それは、住む人にとっても、働く人にとっても、1にも2にも、環境、緑がすごく大事だと思ってます。今見渡すこのまちの風景の中に、何パーセント緑が見つけられるかなっていう、グリーンですね、憩いの潤いの風景っていうのが本当に今、都心の中、空白地帯ですよ。名城公園とか久屋大通は、住宅の緑もあるんですけど、まちなか、道路、せっかく広い道路があるので、ここがもっとグリーンになってたらなっていうのが一つすごく切実に思うところです。

もう一つは、住むにも働くにも、すごいいいなって可能性を感じている面もあって、それは、江口先生の話の中に、圏域発展という話もあったんですけども、私、最近ずっとやりたかったことで、一つ実現できたことがあって、それは、最近、タワーマンションができて、子どもがすごくまちに入って来て住んでくれるようになったんですよ。そのまちの子どもたちを連れて、藤前干潟に遠足に行きたいってずっと思ってたんですね。その遠足企画を一つ実現したんです。まちと海は繋がってるっていう話なんですけれども、タワーマンションの30階建てに昇って、屋上から見ると実は藤前干潟が見れるんですね。今からそこに行こうねって言って、30分で行けちゃう。そうすると、すごく豊かなこの生き物の体験、環境学習ができて、しかも、最近、マイクロプラスチックとかそういうごみ問題にも触れるわけですよ。流れ着いた漂着ごみとかを子供達が宝物のように発見して拾ってくるので。そういう体験をするんですけど、そうすると、やっぱりまちが、山とか海とかに負荷をかけている存在でもあるし、一方で、お互い支え合う関係でもあるっていうのがすごく見えやすいのが、名古屋のまちなか暮らしだとか、まちにいることもすごい特権だなと思っていて。山もそうですよね、山との交流っていうのもやっているんですけども、豊田の山と交流して、都市の木質化っていうプロジェクトもやっているんですけど、やっぱり環境的に共生する、環境共生圏みたいなものが、共生圏っていう範囲で見た時に、とても豊かなんじゃないかなと思っていて、そこを

PR できると、住む、働くにもいい、魅力的なまちになるんじゃないかなって
思っています。

(1 : 33 : 46)

井澤氏

はい、ありがとうございます。確かに道路も広いですから、それをどう緑化する
のか考えたときに、緑化する余地というのは非常にあるような気がします。
白いまち名古屋と言われるのも、今はあんまりそういう見方はされなくて、緑
化がどんどんどんどん進んでるなという視点と、それから錦二丁目のまちづく
りにおいても、木質化プロジェクトということで、いかにその木質を広げてい
くか、木材を使っていろんなものを作り上げていくかと。要するに呼吸するま
ちですよ、これを作り上げていこうという動きをやっているところで、
なばたの里が見えてきたような気がします。どうもありがとうございます。
本田君、いかがでしょうかね。遊びに来る、あるいは名古屋にぜひ住みたいと
いう風なまちにするために、まさに本田君自身は、エンターテインメントの世界
で今非常に頑張っていて、東京にも行ったり、地元でも頑張ったりという風な
ことで、色々展開されているんですが、そういった意味でいうと、どういう名
古屋のまちづくりを進めていくといいんでしょうかね。

本田氏

そうですね、アプローチとして、名古屋に遊びに来てもらうにはどうしたら
いいの、エンタメの目線で行くと何が必要なのかという考え方には、思考回路
としてはどうしてもなっていくんですけど。世の中の様々なアーティストさ
ん、あるいは舞台公演などが、東京や大阪や名古屋でやるっていうのはまた
別で、名古屋でしか見られないもの、名古屋ブランドというエンターテイン
メントが多分、必要なんだと思うんですね、名古屋に人を呼ぶという意味では。全
国渡り歩くものが名古屋にも来ますよっていうことは、それは全国均一な話で
あって、なおそのパターンだと名古屋が飛ばされがちなので、その現実は一旦
別として、やっぱり必要なのは、名古屋ブランド。例えるなら、宝塚歌劇団さん
とかもそうなんですけど、まさに宝塚ブランドの、宝塚に行けば見れる、素晴
らしいエンターテインメントがあるというものが、ああいった歌劇ものでなく
てももちろんいいとは思いますが、名古屋に行く理由になるようなエンタ
ーテインメントが育っていくこと、これはもしかしたらみなさん、お前が頑張れ
よって思ってるかもしれないですけど、そうそう、僕が頑張らなければ
いけないことなんですけど、それをまず育てていくことと、それから、名
古屋から素晴らしいエンターテイナーが生まれていくための土壌を作ること、

というのは、例えば、それはシンガーソングライターの方、音楽を志す方もそう、お芝居を志す方もそうなんですけど、そういった方が、自分たちが、志した道、それから磨いてきた腕を、気軽に、気軽にというとあれですけども、高いお金を払わずとも披露できる場所を整備していく必要があると思うんですね。それは、まちぐるみでエンターテイナーを育てる、そして、成果を発表する場所を提供する、ということをやって、素晴らしいパフォーマー、エンターテイナーが育っていった全国レベルになった時に、名古屋っていうまちが自分たちを育ててくれたんだという感覚を持って全国に羽ばたいたら、その人の口から出るのは、僕は名古屋で生まれたエンターテイナーなんですっていう言葉だと思うんですけど、そのまちのバックアップとかは特になく、自力で駆け上がりましてということだけだと、全国まで、羽ばたいたのちに、名古屋のことを振り返ってくれるかって言ったら、そうでもないのかなと思うので。やっぱりそのまちが、まちの人たちが、そういうエンタメを育てていくっていうような形ができると、またそれがかけ算的に今後良くなっていくのかなってのは、僕は個人的には思ってます。

(1 : 37 : 42)

井澤氏

はい。ありがとうございます。名古屋ブランドをどう地域ぐるみ、都市ぐるみで育てていくかということだと、この間ちょっと別件で、金山で音楽芸術のまちに作っていくかいう中で、長いことヒップホップの世界ではだいぶあの人気だった nobodyknows+ だとか、HOMEMADE 家族だとか、そういうのが育ててきましたと。ほんで、ゆずみたいだね、もう全国区になったのがあるんやったら、名古屋でもなんか育てていくように、最初、カボスみたいな名前でどうやと思ったんやけど、でも、カボスではちょっと、言ってしまっ、しまったなと思って修正しなかったんやけど。やっぱり、育てていく意味で言うと、ゆずに対抗していくんだったら、すだちですよ。すだちというグループ名で、みんなで育ててもいい。柑橘系の爽やかな匂いで、匂いやな、味、香りで、日本、広がっていった、また名古屋に戻ってきてもらうという、そういうなんか仕組み、プログラム。そのまさに先導役は本田君だと思うんですけども、ぜひこれから頑張ってください。

本田氏

それはほんとに頑張らせていただきますので、みなさんよろしくお願いします。はい。なんとか、頑張りますので。

井澤氏

ありがとうございます。どうでしょうか、江口先生は、まちづくりという点で、ご専門が経済ということなもので、先ほど、基調講演されて、非常に説得力のある内容で、資料を使いながら、駆使しながらご説明されたんですが、まちづくりという点で言うと、これから名古屋は何をしていけばいいんでしょうかということですが、魅力ある名古屋を作るためにということですが。

(1:39:21)

江口氏

はい、先ほど、ちょっとね、名古屋の勝負どころは、まちのソフトコンテンツを作ってくってということで、まさにあの、今ね、本田さんがおっしゃられたような、エンタメなんてのは典型ですよ、名古屋ブランドのエンタメを作っていくってのは、全く同感です。実際に、すでにエンタメと言っていいかわからないんですけど、さっき講演でちょっと触れたあの、にっぽんど真ん中祭りなんてのは、ある種のブランド化はしてきているし、それは非常に、まだまだその伸びしろのある、世界展開ができるような、名古屋が誇るコンテンツだと思いますし、もちろん、世界コスプレサミットなんていうのも、あちらの方がね、グローバルな部分ではもうもっと関心があるのかもしれないんだけど、いい感じのコンテンツが育ってきて、それがやっぱり名古屋ブランドになってきていると。そういうのをやっぱり、これはまちとして、市民もそうだし、行政もそうだし、もっと育てていくってことをやっていくといいかなという風には強く思います。それからもう1つ、名畑さんのお話で、藤前干潟の話がありましたけども、いや、実はですね、私、毎年この秋口に1つの授業とゼミで、1か月間に2回、藤前干潟をフィードバックするっていう機会が毎年あるんですよ。今年も2回行ったんですけども、学生たちに藤前を見せると、まず基本的に彼らは、初めて行くわけですね。名前は聞いたことあるけど見たことがないと。で、実際行くとね、みんなびっくりします。たった、名古屋駅から、あおなみ線で20分乗って、野跡の駅からショートカットすると8分で藤前、あの自然が手に入る。ところが、もったいないな、これは学生みんなが言うことです。こんないいものがあるのに、なんでここで儲けようとしんないのか。すごい景色いいし、野鳥あるし、夕日落ちるし、ここにオープンカフェ作れば、全然人来るのに、なんで、ごめんなさいね、役所の人いっぱいいて、怒られるかもしれないけど、市のぼろい野鳥観察館と、隣の環境省のウッドデッキのありがちな施設、この2つだけで、そこを特に人にもっと環境学習っていうところに振っちゃってるんだけど、もっとまちのある種のエンタメ性の見せる場所、都市のエンタメを見せる場所として使おうとしんないのかなというよう

な、今、一例ですけども、そういう稼げるかな、魅力をもっと外に打ち出して
いけるのかなと思うものを、あまり表に出さず、違うことで勝負しようとして
いるっていう風に見えるなっていうのがまず 1 点。

もう 1 個言いたいことがあるんですけど、これもまたね、最近のニュースで、
これも、役所の人いっぱいいるんで怒られること百も覚悟して言いますが、
も、ハロウィン、みなさん気にならなかったですかね、ハロウィン。ハロウィ
ンで名古屋はオアシス 21、閉めたんですね。あれは僕はダメだと思います。
あんなことやっては。冒頭、今日、あの市長が、挨拶の中で、名古屋は消毒都
市と言われとると。井澤先生がそれをおっしゃる話になった。まさにあれ、消
毒都市の典型ですね。あの政策って。で、やっぱりまちっておもしろいまちに
するためには、そのある程度のところって、覚悟を持っておもしろいを潰さな
い我慢していると思うんですよ。でも、それをね、名古屋、あんまりやらない
ように見えます。なので、ちょっとまちづくり、まあ間接的なつくり話ではあ
るんですけども、私は、名古屋のまちづくりに、今必要なのは行政の覚悟かなと
いう風に思います。

井澤氏

ありがとうございます。藤前干潟だけじゃなくて、色々この名古屋には地域資
源があるので、そういったものを上手いことエンターテインメントになり、あ
るいは場合によっては商売なりにもっと活用すればいいのに、どうもなんかお
のずとこう制約を設けて、それでなんか逆におもしろくなる、安全性は高まる
けれども、おもしろみがなくなるということですね。

江口氏

そうなんですね、自己規制っていうか、行政の方は自己規制をしている意識は
ないのかもしれないんですけども。でも、ちょっと早めに止めよう止めようって
というような感じがして、それが残念でならないです。

(1 : 44 : 39)

井澤氏

はい、ありがとうございました。続いてですね、先ほど多少話が出たんです
が、名古屋が東京経由ではなくて、名古屋が直接世界と繋がり、まさにその
7000 万の交流圏と言わず、70 億の交流圏を作っていくみたいな、それぐら
いのなんか意気込みを持つ必要があると思うんですが、先ほどの中部国際空
港、もっと活用すればいいことも含めてですね。その場合に、名古屋って一体
何をテーマに世界に打って出ていったらいいんだろうかな。

先ほどいみじくもどまつりっていうのも、ひょっとしたらああいう祭りっていうのは世界の人々が一緒に集まってイベントとして盛り上げる、そういうコンテンツとしてめっちゃおもしろいかもしれんし、世界コスプレサミットは、コスプレしたいという日本のある意味で言うとアニメ文化を、自分自身がコスプレ、コスチュームプレーをして楽しむという風な文化、これがこの名古屋から発信するという風なところっちゃうのは非常におもしろいコンテンツだという風に思うんですけども。産業としては自動車っちゃうのはあるんだけど、自動車を軸にしたその工業展開っていうのは、これはもう既にやってるんですが、それ以外で名古屋をもっと情報発信していくためにはどうしてったら良いんだろうかなという点で言うと、その辺、本田君、いかがでしょうかね。

本田氏

はい。僕はどうしても考え方が、エンタメ路線の話にはなりますけれど。今、江口先生がおっしゃった、盛り上げるためには多少の痛みも覚悟していった方がいいというところと重なる部分はあるかもしれないんですけど。

世界からさらに人を呼ぶにはどうしたらいいかって言ったら、日本に観光来ると言っても、その、あえて名古屋を選ぶ理由がやっぱり必要だという中で、やっぱりその、サブカルとかかなとは僕は個人的に、サブカル、もっとサブでなくてもいいんですけど、映画、アニメ、漫画などの、聖地巡礼っていうのは、国境を越えてみなさん好きなことだと思っていて。例えば、漫画 SLUM DUNK という作品があって、その作品の中で出てくる踏み切りが、神奈川県にあるんですけど、そのあたりに海外の方が、大挙していらっしゃったとかいう話があったりするわけですけど、そうすると、色々ゴミ落としてくとか結構迷惑な撮影をしていく方がいらっしゃるのかな、そういう話はあるんで、こちら辺は、リスクマネジメントも必要かもしれないんですけど、例えばですけど、ほんとに、世界規模の映画撮影のロケ地として使っていただけるように、それはむしろこちらから売り込んでいく、あるいは招致していくとか、漫画とかアニメとかも、愛知県ご出身の素晴らしい作家の方もたくさんいらっしゃいますし、あるいは、愛知県を舞台にしている作品っていうのはたくさんある中で、そういったところとのタッグの組み方というんですかね、それをもうちょっと積極的にやっていくことが、世界とつながる 1 つのキーにはなるのかなとは思ってます。

井澤氏

あの、清須です、清須に在住の鳥山明さんは、ドラゴンボールとか、Dr.スランプとか、そういう風な形で、特にドラゴンボールは凄い世界のコンテンツにな

ってるいうのもありますし、今、手放しましたけど、名古屋テレビさんなんか
が、当初、機動戦士ガンダムのコンテンツ作成は、あそこでやっとなんと
ところが、なかなか当初は売れなかったみたいですね、あのアニメは。で、手
放したっちゃうやけど、今考えたら、手放して大損してるんじゃないかなと
思うんですが、それぐらい、コンテンツっていうのは、この名古屋も無縁では
ないという風に思うんですけれども、それを、新しいコンテンツ、これからど
う作っていくのかっていう風な点で言うと、今の本田君が言われたような展開
の仕方っちゃうのは十分にありかなと思うんですけれども、その辺、江口先
生、いかがですか。

(1:48:51)

江口氏

そうですね、考え方としては、すごく、おもしろいっていうのか、よくよく理
解できるということだと。で、冒頭の、先ほどのね、井澤先生のご質問で、名
古屋が、世界と直接どうやって繋がっていくかっていうことに対しての、僕な
りの考えなんですけども。いや、実はね、名古屋ってね、本当は世界とも繋が
ってるんですよ。それ、どういう意味かって言うと、名古屋って、愛知県って
のは、人口に占める外国籍市民の割合が、全国で東京に次いで2番目に高い。
だから、我々すぐ近くに外国の人っていっぱいいるまちなんですよ、ここっ
て。けども、我々普段暮らしていると、外国籍市民の、外国人の人たちを意識
するかっていうと、コンビニとかね、そういうところ行くと、ここも外国人の店
員さんだなんていうのは見るんですけども、それだけですよね、多分。割とね、
切り分けられてるんですよ。名古屋の日本人コミュニティ、名古屋の外国人コ
ミュニティで、そこの間の接点はコンビニぐらいしかないっていう感じで。
でね、それってね、やっぱりもったいないなと思います。世界と直接繋がるっ
ていうと、どうしても、インバウンドのお客さんを増やそうとか、外国の企業を
ここに来てもらおうとかっていう発想になって、それはそれで大事なんだけど
も、でも、足元にいる外国籍の人たちっていうのも、まさにそれは世界であっ
て、その人たちを我々は包含してるのか、なんか接点を持ってるかっていう
と、そうではない。で、そういう人たちがこのまちの表舞台に立って、例えば
分かりやすい例だと、じゃあ、名古屋に住んでる外国人の人たちがどまつり
で、ああいうよさこいをいっぱい踊ってくれる、そういうチームがたくさん出
てくると。これって完全に世界と繋がったことで、彼らはきっとそれをSNS
とかで発信して、母国とかあっちこっちに出してくるわけです。そうすると、
名古屋って自分たちみたいな、外国から来た人もオープンに楽しんで暮らして
いけるまちなんだと思ってくれば、もうそれでオッケーで、そういうところ

からその世界との繋がりがあっていうのを作っていくっていう視点も必要かなって
いう風に思います。

(1:51:17)

井澤氏

はい、ありがとうございます。確かにそうですね。東京はどちらかというと、
サービス業を中心に外国人労働力をどんどん入れとって、名古屋はむしろ工業
というか、そういう風なところで現場に入っていくということなんですが、ほ
んまに今、日常的に意識しないけど、栄にいと、もうもうしょっちゅういろ
んな人が行き来してるという風な感じです。コンビニとはもう仲良くなってい
ますんでね。僕、行ったら黙ってでもコーヒーを出してくれますもんね。もう
黙ってでも出してくれるという、サンキューとか言いながら、ありがたいた
だいておりますけども。そうですね、もうすでにほんとにそういうコミュニテ
ィというものがある、外国人の方のコミュニティがある中で、その辺が対立し
ゃなくて融和する。融和する中に、先ほどの、どまつりだとかコスプレサミッ
トだとか、そんなおもしろいコンテンツがこの名古屋で繰り広げられる。そう
いう中で世界と繋がってさらに絆を深めていくみたいな、そんな物語みたいな
ものを、ぜひ歌にしてほしいですね。誰かお願いしたいなという風に思いま
す。

続いて、最後の質問なんですが、空間、場所の魅力と言いますかね、まちづく
りという風な点でお話したんですけれども、江口先生のあの中にも、人の魅力
というのはめちゃくちゃ重要だという風な話がございました。私自身も以前、
コペンハーゲンに行った時に、カメラ持ってまちをだんだんだんだん映しとっ
たら、小学校の裏門のところ行ったら、そこの裏門から3人の小学生が出てき
て、何しとるや、みたいなのでこっち見てね。ほんなら、あの校内の方に向か
って、おい、なんかわけのわからんおっさんがカメラ持って写真を撮しとる
ぞ。みたいな感じですよ。言葉ちょっとデンマーク語でわからなかったんです
けど、ほんだら14人ぐらい子供がガー出てきて、みんながそれぞれのポーズ
と笑顔で私のカメラに向かって、映してくれみたいな感じでもてなしてくれた
んですね。途端にデンマーク良いな、コペンハーゲン良いな。もう単純ですか
ら、そういうまちっていうか、人とのもてなし方というかね、そんな別にお金
とか料理でもてなさなくても、笑顔でもてなしてくれるだけでも相当おもしろ
いまちだなという風に、期待できるんですけれども。そういう意味で言うと、
この人の魅力、名古屋の人の魅力、これをどう高めていったらいいんでしょう
ねって。名古屋の人っていい人だねとか、おもしろいねみたいな、そういう風
な人がどうやったら育っていくのかな、ということなんですが、あいにく江口

さんと以前話した時には、名古屋って、あんまり名古屋人っておもしろくないよねとかいうこと言っとったんですけど、どうですか。

(1:54:13)

江口氏

そうなんですよね。井澤先生関西で、私名古屋生まれなんで、井澤先生はおもしろいけど、自分自身あんまおもしろいなとは思えないっていうこともあって。名古屋の人おもしろくないなってのは、やっぱりこれって、ある程度証明できる話で、昔、私、人気芸能人っていう人の出身地を調べて、どこの都道府県がいわゆる人気芸能人ってをたくさん排出するかデータ取って、都道府県比較やったことあるんですけど、1番はやっぱり東京で、あと上位に来てるのは、福岡と京都と広島と沖縄だったかな。なんとなくみなさん感覚的にわかる、今でも多分そうだと思うんで。名古屋って全然だめだったんですよ。昔。ところが、最近変わってるんですよ。まあ、最近、まだデータは調べてないんですけども、ここ10年ぐらい、名古屋出身の芸能人で活躍されてる方ってものすごく増えた感じしませんか。音楽の世界でもそうだし、俳優の世界でもそうだし、私ぐらいの世代っていうのは、みなさん、今日いらっしゃる方でも、私58なんですけども、あんまり変わらない方もいらっしゃいますが、昔ってやっぱり、名古屋はタモリに馬鹿にされ、オリンピックの誘致で負けて、日本全国から、ちょっとやや笑われて、しょんぼりしてた時期があったんだけど、バブルが弾けて、東京、大阪が沈んだ後に、相対的に、製造機が強い名古屋が浮き上がってきて、名古屋嬢ブームが起きたとか名古屋めしブームが起きたってことで、今の若い人って、名古屋出身であることにネガティブなイメージって持ってない。やっぱり、その辺のところが、今、芸能の世界、芸能世界って、個人の魅力で勝って勝負していく分野だから、人としてのおもしろさ、キャラが立ってる部分がないと活躍できないんですけど、そういう感じがやっぱり出てきてると思います。なので、今はかなりいい流れになってきているというのは間違いない。だから、昔みたいに名古屋の人はつまんないねっていう風なだけではなくったというのはある。ただ、まだ足りない。もう1歩踏み出すためにはっていうことになる、それはやっぱりいろんなところでの、さっきのオアシス21の話にまた戻ってしまうんですけども、色々なところで社会としてこれは世間体が悪いとかね、これは社会に迷惑がかかるとか、ていうところで規制っていうのを早めにするような世代。あるいは行政だったり警察だったり、まあ警察は仕事柄仕方ないかもしれないけれど。いろんなところで、まだ、はじけようぜっていうのを止める空気感っていうのは残ってるので、世代で変わるのかもしれないんだけど、そこはね、意識して、やっぱり力を持って

る、そのコントロールする側の立場の人たちが、なるべく覚悟を持って我慢しようってことをすると、人ってというのがもうちょっと魅力的になる、変わった人が増えてくるかなという風に思います。

井澤氏

ありがとうございます。名畑さんはいかがでしょう。

(1:57:51)

名畑氏

ありがとうございます。今、江口先生の話にかなり繋がる場所があるんですけど、やっぱり規制緩和が大きいなと思ってて、おもしろい人もいる、文化もある、それにこう出会えるっていう発表の場がめちゃくちゃたくさんあるっていいなっていう風に思うんですけど、それがまちの風景になってる。なので、例えば道路にしても、公園にしても、いろんなところで、文化芸術が発表されていて、音楽が鳴っていて、目的的に名古屋に来た人も、まち歩きしているうちに偶然おもしろい人に出会ったりっていう、偶発性のおもしろさっていうのに、まちは出会うところだと思うんで。そうすると、すごい、発表の場があり、人がおもしろくなり、さらにそれを、受け止める場もあるっていうので、やっぱり、人と場所はセットだなと思っているので、文化政策と都市政策が、一緒になっているっていうことが、結構大事なことなんじゃないかなっていうふうに思います。

井澤氏

はい、ありがとうございました。じゃあ本田君、いかがでしょうかね。

本田氏

そうですね、今おっしゃっていたその文化政策と都市政策っていうところで言うと、本当に、さっき話したことに繋がりますけど、予約さえすれば無料で使えるステージとかがあっちこっちにあればいいのになっていうのは、すごく思いますね。路上とかで色々やってらっしゃる方ってのは実際にいるんですけど、それがちゃんと双方にとって、ルールに守られたものになって、より伸び伸びとやっていけた方が、さらに伸びしろがあるのかな、というふうには思います。

井澤氏

はい、ありがとうございました。時間がまいりました。最後に一言ずつ。言い

逃したことだけ簡単に。誰から行きましょうかね。じゃあ先ほどとは逆に、本田君、名畑さん、江口先生ということで、一言ずつ何かございましたら。

(2:00:03)

本田氏

愛ですね。ほんとにまちへの愛を持ってらっしゃる方がたくさんいると思うし、今日来てくださっている方もそうだと思うんですけど、その愛を、あとは行動に移すだけと。みんなそれぞれの得意分野で移していくってことが、何か、形になるんじゃないかなと思いますので、僕ももうちょっとしっかり頑張りますので、みなさん、よろしくお願いします。ありがとうございました。

井澤氏

じゃあ名畑さん。

名畑氏

取られちゃったけど、愛です。ほんとにそうで、今日は、総合計画だと、社会包摂とか、難しい言葉がくるんですけども、なるべく自分と接点を持って考えるってことは、主語を小さくしていく。私がとか、私たちがっていうふうな、思いと計画をつないでいくことなんだなっていうふうに思うんです。私は、今、実は、ちょっと立つと、あれなんですけど、9ヶ月の妊婦なんですね。ありがとうございます。で、産休前のギリギリ滑り込みセーフなんで、今日登壇させてもらっているんですけど。やっぱり自分の子供にどういうまちを受け渡したいかって考えると、切実になってきたりだとか。電車乗ると95パーセントぐらいは譲ってもらえないんで、冷たい社会だなと思ったりするんですよ。なので、みなさん、今度見かけたら、席譲ってください。はい、社会包摂です。ありがとうございました。

井澤氏

まさにご発言サンキューですね。はい、じゃあ、江口先生。

江口氏

はい。私からも具体的なことを1つだけ。名古屋のこれからの勝負ところは久屋大通公園の南側のスペースだと思います。

先ほどね、本田さんがすごくいいご提案をされました。自由に使えるような、エンタメができる、予約すれば使わせてもらえるような発表の場。そういうのって本当に名古屋、あった方がいいと思うし、それは是非作るべきだと思います。

す。それから、人の交流っていう部分で言うと、例えば、久屋大通の南でフリーマーケットを毎月ね、1 回とか、巨大なフリマをやると。フリマってやっぱり人の交流を生む。で、交流するとやっぱりその名古屋の人ってのは、こういう会話ができるんだって、それを楽しんでもくれる人とかできる、生まれてくる。やっぱり、あの場所が、今、名古屋に残された最後の、最後って言ったら怒られるかもしれないけど、貴重な適地だと思います。変なもの建てないで、そういう場に使ってほしいなっていうのが私の今日最後の言葉とさせていただきます。

井澤氏

はい、どうもありがとうございました。時間がちょっと 3 分ほどオーバーしております。テーマは、まちづくり・リニア中央新幹線を中心にこれから名古屋どうしていくのかという、議論をお話させていただきました。

やはり、リニアが来ることによって、東京、大阪、この辺が非常に近い距離になっていくこと自身は、人を呼び込むということもあるだろうし、こちら側から、東京なり大阪を使いこなす、いわゆるもう我々の日常生活圏の中に 2 つが入り込んでいるというふうなところで、どうやってまちとして育てていくのかということがどうもテーマになるようでございます。

名古屋には非常にたくさんの資源、先ほど藤前干潟の例を挙げられたんですけども、あるいは久屋大通という資源もあるわけですが、それがなかなかうまく使いこなせていない。それはいろんな、大人の規制みたいなものもあるのかもしれませんが、できるだけそういう規制を外しながら、愛をもって 1 歩前へ踏み出し、行動をしていこうというのがみなさんの発言内容だったのではないかな。もう愛あるのみですね。

ということで、簡単でございますが、これを持ちまして、今日のこのシンポジウムを終わらせていただきたいと思います。どうもご清聴ありがとうございました。

司会

みなさま、どうもありがとうございました。

リニア中央新幹線の開通に伴って、今後、名古屋市がどのようなまちづくりをしていけば良いのか、みなさまから様々なご意見を伺って、私たちも色々と考えさせられました。

みなさま、ご出演いただいた井澤様、江口様、名畑様、本田様に今 1 度盛大な拍手をお願いいたします。以上をもちましてトークセッションを終了いたします。

(2:04:57)

次に、名古屋市次期総合計画中間案に対する意見聴取に移ります。これより、これからの名古屋市をどうしていくべきかという観点で、みなさまのご意見、ご提案をいただきたいと思います。

ご意見、ご提案のある方は、まず挙手をお願いいたします。私が指名した方に係のものがマイクをお持ちしますので、できる限りはっきりとご発言ください。できれば、計画中間案のどの部分についてのご発言かを触れてからご発言をお願いできればと思います。ご発言が終わりましたら、マイクを係のものへお返しください。

できるだけ多くの方からご意見をいただきたいと考えておりますので、お1人様1分以内、1回限りで簡潔にご発言いただきますようご協力をお願いいたします。1分を経過したところで、主催者よりベルを鳴らしますので、ベルの合図を目安にご発言を終えていただきますようお願いいたします。なお、発言内容は会場にお越しのみなさまだけでなく、配信をご覧のみなさまもお聞きになっています。他の方を不快にさせたり、誹謗中傷するような表現にならないようお願いいたします。場合によっては発言途中であってもお止めすることがありますので、よろしくお願いいたします。

みなさまからのご意見、ご提案を伺った後に市からコメントいたします。

ここで、市の登壇者をご紹介します。総務局企画調整監の武田淳でございます。総務局企画部長の塩沢洋でございます。総務局企画部企課長の渡辺孝彦でございます。

それでは、どなたかご意見、ご提案のあるかたはいらっしゃいますでしょうか。

それでは、1階席の後方のステージから見て1番右のブロックにいらっしゃるかた、お願いいたします。はい、お願いいたします。

(2:08:08)

参加者①

名古屋市の昭和区から来ました〇〇と申します。この総合計画は、脱炭素社会に向けての施策がですね、非常に少ないと思います。4ページの9番目にありますが、1番最後ですし、それから、重要なことは水素エネルギーの重要性、水素エネルギーに重点を置くのは、間違っています。水素は脱炭素対策にはなりません。化石燃料から取り出す、取り出して、その製造の時に、CO₂を出しますので、ですから、まず、再生可能エネルギーの電力を増やして、それによる電気分解で水素を作るんだったらいいんですが、それはまだ先のことです

から、その前に、名古屋としては水素に頼るのではない脱炭素政策を作らなければいけないと思います。重要なのは、その先ほどのお話にも、江口先生のお話にあった、モビリティ産業ですが、これが、燃料電池車に頼っている、あるいはハイブリッド車に頼っているトヨタ自動車の方針は間違っていると私は思います。というか、海外に輸出する車はもうEVばかりです、トヨタでも。日本でも、テスラではなく、トヨタのEVに乗りたいです。トヨタが開発した充電施設を、名古屋は、EVを充電する施設を、インフラをもっと進めなければいけないと思います。

司会

ただいまのご意見、ご提案を受けて、いかがでしょうか。

名古屋市

はい、企画課長の渡辺でございます。〇〇様、ご意見ありがとうございます。脱炭素の観点が少ないのではないかとこのところからですね、水素、あとは、EVに関するインフラ整備等、多々ご意見いただいたところでございます。ありがとうございます。

脱炭素につきましてはですね、今ご指摘いただいたところに加えてですね、その後のですね、重点戦略とか、重点戦略ですと、概要版の10ページとかですね、あとは、11ページにはエネルギーの観点でですね、あの水素の記述もございますが、それとセットで、再生可能エネルギーの利用拡大、合わせて両方が大事だということで書かさせていただいてるところでございます。

ただですね、脱炭素記述自体が少ないというご指摘、その辺りは、今後の最終案に向けて検討もさせていただきたいと思っておりますし、水素に関しましてもですね、様々な課題があるということも承知しておりますし、再生可能エネルギーの重要性に関してもですね、ご指摘の通りだと思っております。また、EVシフト、モビリティもですね、様々なやり方があると思っております。何か1つというよりはですね、全体として脱炭素化を図っていく、モビリティの部分でも図っていくというのが基本かなと思っております。その中でもですね、EVも、重要な選択肢だと思っておりますので、インフラの部分も含めてですね、この計画を最終案の来年度に向けて作ってまいりますけども、検討を深めてまいりたいと思っておりますので、ご意見ありがとうございました。

司会

ほかにご意見、ご提案のあるかたはいらっしゃいますでしょうか。それでは、1階席後方のステージから見て1番左の席の方、お願いいたします。

(2:12:15)

参加者②

はい、すいません、ありがとうございます。北区の40代の〇〇と申します。生まれも育ちも名古屋なんですけど、基本、住んでる限りは、大きな不満はないので全然いいんですが、ただ、少しずつ、不満は高まっている部分があります。ちょっと言いたいことはいっぱいあるんで、ちょっとまとめますが。言いたいこととしては、この20年後ぐらいを見据えると、今の計画で、海外の人とかが増えたり、交流人口が増えるということを言われてますが、特にそこは望んではいないので、市民生活を、やっぱり、まずは魅力を高めてもらわないと、そこは受けられないよってこと。例えば、埼玉、川口のようなことになってはちょっと困るので、あと、海外事情も、今、いいとは言いきれない部分もあるので、そこは、ちょっと、しっかりと切り分けてやってほしいなということと、ただ、やっぱり、名古屋は来てもらわないといけないので、特に、この戦略5の4の辺りですとかで、何度も訪れたくなるまちづくりというのは、やっぱり重要だと思いますので、先ほど、ハロウィンのことではないんですが、とか、まちづくりのことですね、はしっかりとやってほしいなというように思います。

名古屋市

はい、〇〇様、ありがとうございます。
おっしゃられる通り、市民生活第1っていうのは、基本的な考え方だと思ってまして、私どももそう思っております。そうした中でですね、当然、国籍に関わらずですね、みなさん、この名古屋市内で共生していくということも大事だと思っておりますので、現に住んでいらっしゃる外国人の方、今後来られる外国人の方とも、しっかり共生していくという考え方も一方でちょっと重視してまいりたいと思っております。またですね、何度でも訪れたくなるというところ、我々もですね、名古屋の魅力をどう高めていってですね、そういったことをどう発信していくのかっていうのは引き続き大きな課題だと思っておりますので、少しこう、総合計画の中にもですね、しっかり位置付けながら取り組みを進めてまいりたいと思っております。ご意見ありがとうございました。

司会

他にご意見、ご提案のある方はいらっしゃいますでしょうか。それでは、1階席の前方の中央のブロックにいらっしゃる方、お願いいたします。

(2:14:43)

参加者③

はい、東区の〇〇と申します。名古屋が、リニア開通によって、東京の郊外にならないためにはですね、新しい時代の可能性を開くモビリティ、エネルギーとか、あるいは、ソフトウェアといった、技術開発とか、関連産業の育成っていうのが非常に重要な課題になるという風に思います。伺いたいのは、それをね、自治体の総合計画の枠組みで具体的にどういうことができるのか、そういった課題に取り組むためにですね、そこをまあの問題にしたいということで。ちょっとお答えになりやすいように1つ具体的なテーマ出しますけども、例えば名古屋港、日本一の商業港ですけども、やっぱり機能更新が必要な時期になってきてると思いますし、遊休地も今後発生してくるかもしれない、愛知県との連携が必要だと思いますけれども、例えば名古屋港の今後について、この総合計画の中で具体的に考えてらっしゃることがあればお教えいただきたいという風に思います。以上です。

名古屋市

はい。〇〇様。ありがとうございます。名古屋港に関しましてはですね、すいません、ちょっとお手元の概要版の中ではですね、あまり名古屋港に関してちょっと謳ってないところではあるんですけども、中間案の冊子とですね、最終的な計画案をまとめに行っていくにあたっての課題認識ということで言いますと、当然、名古屋の世界に向けた玄関口、産業にかかる玄関口ということで、重要性は、本当に大きなところだと思っておりますので、産業を支えるという意味、また、災害対応、防災という観点もそうですし、あとは、観光の部分でも魅力を高めるという視点、あとはですね、カーボンニュートラルポートという、脱炭素の取り組みを行う場所ということでもありますので、そういう多面的な港の要素っていうのはですね、しっかり名古屋港管理組合、愛知県、名古屋市という関係自治体、また産業界ともですね、連携をしながら取り組みを進めていくというのが名古屋市の考え方でございますので、ちょっと今日のお示しした資料の中ではなかなかそういったところが見えませんが、しっかりそうした考えを持っておりますので、計画案の中でしっかりそういったことが伝わるような書き方を今後してまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。

司会

他にご意見、ご提案のある方はいらっしゃいますでしょうか。それでは、1階席後方の中央のブロックにいらっしゃる青い服の方、お願いいたします。

(2:17:40)

参加者④

中区の〇〇と申します。よろしくお願いします。私から2点お願いします。ユニバーサルのまちづくりっていう戦略2のところですかねえ、の点で1点。今日のテーマと関係ありそうですが。バリアフリーの設備云々って話ですが、名古屋にしても数が少ない、また、あっても古くなっているっていう点について、まず、機能更新等をアジアパラ大会に向けてどう進めていくのかっていうのが1点。

今日のテーマでいくと、東京へのストロー現象に対する、名古屋市としての具体的な対策をお伺いしたいっていうのが2点。この2点についてお答えをいただきたいと思います。

名古屋市

〇〇様、ありがとうございます。1点目、ユニバーサルデザインのまちづくりということで、現状、バリアフリーの状況まだ不十分だということ、ご指摘の通りだと思っております。これまでも順次進めてまいりましたが、これからは一層進めていく必要があると思っております。その際にはですね、バリアフリー・ユニバーサルデザインも、ハード面もしっかりやっていきますし、ソフト面も大事だと思っております。アジアパラの大会がなかったとしても、当然やってくことはあると思っておりますけども、それを契機としてより加速させていくという視点は大事だと思っておりますので、そうした点はしっかり位置付けてまいりたいと思っております。

で、2点目、ストロー現象。リニアを受けたストロー現象というところですね、ご指摘の通りだと思っております。そういう懸念があるということもありますので、そうはならないようにということ、リニアの利点ということで言いますと、移動時間短縮効果で、交流拡大、ビジネスの可能性広がりということもありますので、やっぱり、ストローされない強さ、魅力、そういった点で言うと、産業のどこかの分野だけということではなくて、産業、観光、環境なんかの対応も、もちろんそうだと思います。今日の話でもありました、まちの魅力、あと人の魅力、全体の底上げが大事なんだと思っておりますので、少し、そういう、リニア、いいことばかりではなくて、課題認識もしっかり書いた上で、全ての底上げをはかってくるというのが、この総合計画の中でも改めて位置付けてですね、幅広い分野での取り組みを、進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

司会

まだまだご意見、ご提案もあろうかと思いますが、予定時刻を大幅に超過しておりますので、申し訳ございませんが、あとお1人とさせていただきます。ご協力をお願いいたします。それでは、ご意見、ご提案のある方はいらっしゃいますでしょうか。

では、1階席後方のステージから見て1番右の列の方、お願いいたします。

(2:21:02)

参加者⑤

はい。天白区在住の20代で大学生のものになりますが、若者評議会の評議員をしております。戦略1の方に、「若い世代が将来明るい展望を持ち…」という風を書いてあるかと思いますが、ここに書かれているのは、出会いや結婚、そして子育てについて書かれている。これは30代以降のことかと思いますが、20代の私からすると、名古屋から転出して行って、広島に行ったり札幌に行ったり、東京に行って、そこで都市愛が芽生えて、あ、広島いいところだな、東京いいところだなと言って帰ってこないという人が先輩にも同級生にも多くいます。

そして、名古屋に来た友人、外からやってきた友人は、都市愛があるから、まちの愛があるから、やっぱり帰って就職するかなという人が結構います。これは大阪でも東京でも札幌でもそうですが。ここには30代以降について書かれているかなという風に私お見受けしますが、20代、10代の市民に対して、どのように名古屋の都市愛を育てるのか、あるいはその辺について、どのように総務局の方が考えられているのか、答えていただけるとありがたいです。

名古屋市

はい、すいません。お手元の資料で言いますと、6ページに関しては、少し若い世代、子育てとかですね、少子化の目線でまとめられたところがございますので、少しちょっと、若者、若い世代の方に活躍していただくというところまでちょっとカバーしているところではございません。

ただ、おっしゃられる視点ということで言いますと、確かに若い方が転出をされて戻ってこないというところ、大きな課題でございますので、当然、住むという観点、働く観点もそうですし、活躍していただくという観点も大事だと思っておりますので、私どももですね、若い世代、当然、学生さんからですね、学生、卒業した方、学校を卒業された方にもですね、活躍していただけるということで、13ページの中でですね、具体の取り組みでまいりますと、都市像2というところの17番にですね、「若い世代が学び育ち、活躍できるまちを

つくります」ということを掲げているんですけども、この辺りはですね、学生さんから若い世代の方が、先ほどの子育てとかそういったところに限定されることなくですね、この名古屋というフィールドの場ですね、しっかり学び、活躍し、交流してもらおうというところですね、現在も学生の後押しするまちづくりを進めておりますので、そういった施策を中心としながら、活躍できるまちづくりというのは進めてまいりたいと思っております。そうした中でですね、ここの要素と、先ほど申し上げた、住む、住みやすい、働きやすいとか、そういった複合的な要素をしっかり整えていって、少しでも転出されて戻ってこないというようなことがない、名古屋がやっぱり魅力的で、住んだり働いたり活躍したりっていうことで選んでいただけるようなまちづくりっていうのは、進めてまいりたいと思っておりますので、ご意見ありがとうございます。そうしたところはですね、引き続き力を入れていく分野だと思っておりますので、また今後の議論につなげてまいりますので、よろしくお願いいたします。

司会

それでは最後に、総務局企画調整監より一言ご挨拶させていただきます。

名古屋市

はい、みなさん、本日は大変たくさんの貴重な意見、ありがとうございます。脱炭素、それからまちの魅力、名古屋港、それからバリアフリー、ストロー現象、若い世代の施策等々、本当にたくさんのご意見をいただきました。こういったご意見を踏まえまして、次期総合計画を策定してまいりますし、今後の市政に活用してまいりたいと思います。また、まだ意見言い足りない方もみえるかと思います。今日の資料のところですね、ご意見、ご提案のところも、書くところもございますので、ぜひ、ご記入いただきまして、お寄せいただければという風に思います。本日は誠にご意見をいただきましてありがとうございました。

司会

会場のみなさま、配信をご覧のみなさま、長時間にわたりありがとうございます。

本日ご発言いただけなかったご意見、ご提案は、お配りしている意見用紙にご記入の上、受付付近の回収箱に入れていただきますようお願いいたします。

また、アンケート用紙につきましても、お手数ですが、ご記入の上、受付付近の回収箱に入れていただきますようお願いいたします。

なお、中間案に対するご意見、ご提案は、後日お寄せいただくことも可能で

す。12月25日まで、郵送、メール、fax、webにて募集しております。詳しくは、本日お配りした中間案概要版の裏面をご覧ください。

配信をご覧のみなさまも、概要欄にアンケート回答フォーム、ご意見募集フォームへのリンクをご用意しておりますので、ぜひご回答よろしくお願いいたします。

最後に、次回シンポジウムのご案内をさせていただきます。次回シンポジウムは、12月11日月曜日18時から、Niterra（ニテラ）日本特殊陶業市民会館ビレッジホールにて開催いたします。今回同様、会場での開催に加え、同時生配信と後日録画配信を行います。

会場参加をご希望の方は、現在先着順でお申し込みを受け付けております。お申し込み期限は11月24日金曜日までです。

詳しくは、区役所、支所等で配布しているチラシや名古屋市公式ウェブサイトをご覧ください。

それでは、以上を持ちまして名古屋市次期総合計画シンポジウムを終了いたします。本日は誠にありがとうございました。